

■石黒(藤右衛門)信由 和算家、測量家。伊能忠敬にも劣らぬ正確さで、加賀・越中・能登の地図(内陸も)を作成。

いしぐろのぶよし

大岡忠光没・1760＝ 越中国射水郡高木村で、庄屋石黒家6代目与三吉の長男に生まれる。

・・・・・・1762＝ 2歳：父と死別、

母とも別れて、石黒家を中興し肝煎を務める祖父石黒藤右衛門に育てられ、

・・・・・・1769＝ 9歳：

幼い頃から算学に興味を持ち、

田沼意次老中1772＝12歳：

船蝦夷来 1778＝18歳：

天明大飢饉始1782＝22歳：富山藩士で関流算法五伝の免許を持つ中田高寛に入門、

意知刺殺事件1784＝24歳：祖父が死去、家督を相続して、藤右衛門を襲名し、肝煎となる。

田沼意次失脚1786＝26歳：

寛政改革始・1787＝27歳：

松平定信引退1793＝33歳：

ポルトガル来航・1796＝36歳：*関流和算の免許を受け、第六伝として、北陸和算の第一人者となる。

さらに、金沢の宮井安泰のもとに入門して、山崎流測量術を学び、

蝦夷地直轄始1799＝39歳：城端町の天文学者西村太沖に入門し天文暦法についても学ぶなど、和算・測量術・天文について習得し、この頃から村の測量を行って地図を作り始める。

宣長没・・・・1801＝41歳：山崎流測量術免許を取得する。

アフリカ船来航始1803＝43歳：全国を測量中の伊能忠敬らが放生津山王町の柴屋彦兵衛宅に宿泊した際、忠敬を訪問し、象限儀等による天体観測を見学した。新湊市から富山市に至る沿岸測量に同行し、測量器具について詳細にメモを取る。

バブ来航・1804＝44歳：この年から、弟子らとともに、「算学鉤致」の著述を始め、

青洲麻酔手術1805＝45歳：

間宮海峡発見1808＝48歳：金沢城で火災が発生し絵図(地図)を焼失、加賀藩は各地の絵図を提出させた際、射水郡の地図を作製、

射水郡の地図が非常に優れていることが認められて、藩から各地の測量を命じられ、境界紛争の裁定や新田の開墾に貢献し、

黒住教・・・・1814＝54歳：

杉田玄白没・1817＝57歳：*射水郡新田裁許並に採用され、

水野忠成老中1818＝58歳：

群書類従完結1819＝59歳：「算学鉤致」3巻を出版。遊芸化していた遺題継承にも終止符を打つ。郡内の道筋の絵図を作成することを命じられ、

シボ来日・1823＝63歳：

シボ鳴滝塾1824＝64歳：郡内の絵図を完成させ、加賀・越中・能登三州の郡図10枚を加賀藩に提出、

異国船打払令1825＝65歳：*続いて「加越能三州一国一枚組分絵図」「村名帳」「加越能三州郡分略絵図」を提出し、藩から金2両を受領。

シボ来事件・1828＝68歳：

晩年には、優れた航海術の書「算法渡海標的」を著す一方、多くの土地を買い集め、引き継いだ持高を7倍にまでし、大部分を小作人に耕作させる大地主となって行く。

鼠小僧磔・・・・1832＝72歳：

滑稽+人情本 1835＝75歳：*さらに「三州測量図籍(1～12巻)」「加越能三州郡分略絵図大1枚」「同小1枚」を提出して、

・・・・・・1836＝76歳：没した。